

# 丹波古文書倶楽部会報 古文書かわら版

## (創刊の辞)

学問の神様の存在である孔子は2500年も前に学ぶことの本質を『子曰く、学びて時に之を習う、また説(よろこ)ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや。人知らずして慍(うら)みず、また君子ならずや。』と説いています。(注 論語学而篇 解説は次頁参照)

この孔子の言葉を我々の古文書解読という地味な勉強に当てはめると、読めた、判ったという自分の「よろこび」がないと続けられないものだと思えます。

また、人に褒められ、評価されたなどの体裁ばかりを追う態度では挫折する事でしょう。

やはり、同じ趣味を持つ人と語り合い、励まし合うという、朋とともに学ぶ「樂しみ」を分かち合わなければ、続かない勉強だと思えます。

一方、丹波古文書倶楽部の会則には『第2条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、古文

書の調査研究を行い、その成果を次世代へ伝えていくことを目的とする。』と謳われています。

発行者 川口丹波守利和  
編集者 新陽弟 軒鳥足齋  
発行元 丹波古文書倶楽部

この会がその成果を世に問

い、次世代に残していく為には、講義という「学びの場」での切磋琢磨とともに、朋との気軽に尋ね、教え合い、親睦を図る「交歓の場」が必要だと思えます。

その両者を提供できてはじめて、古文書倶楽部の目的を完遂できると信じています。その「交歓の場」の重要な一翼を担うものとして、会報の発行を企画したところです。会員各位の末永いご支援をお願い申し上げます。

版主 敬白

## (命名の次第と項目)：鳥足齋

折角、古文書を学んでいるのですから、江戸時代の簡便な情報紙『かわら版』風に仕立てたい、と考えています。賛同を得られれば、以下のように項目や内容を定めたいと思えますので、ご意見を寄せて下さい。

まず、事務局からの連絡欄を左の様な形の『高札場』という名称にしたらと思います。

高  
札  
場

このかわら版では主として、版主(藩主)川口丹波守利和公

が、時には、勘定奉行(会計担当)小西春日守敏晴殿や大目付(監査役)細見水上守典子殿から連絡(下知)します。

当面は、会員間の親睦を深めるため、全員の自己紹介に紙面の大半を使いたいと思えます。どんな目的で古文書を学ぼうと思ったのか、とか、読めるようになったらどんなことをしてみたいと思っているのか、とか、古文書倶楽部以外にこんなことに取り組んでいる、とか、お互いに親しくなるためのきっかけとなるような場を提供したいと思っています。左の様な形です。

口  
上

デジタル大辞泉では、『興行物で、出演者または劇場の代表者が、観客に対して舞台から述

べるあいさつ』、と説明があり、初演や襲名披露など大事な機会によく行われたそうです。皆さんに口上を述べていただき、これを読んだ人が、一度あの人に話しかけてみようと思きかけてもらえれば、と考えました。

次いで、丹波地域の古文書、歴史や文献等に関する質問と回答を会員相互間で学び合うシステムとして『迷子しるべ石』の項を立てたいと思えます。

迷子しるべ石は安政の大地震や度重なる大火事等で親にはぐれた迷子を探すために江戸の浅草に建てられた四角の石柱で一方に「たずぬる方」、反対側に「志らせる方」と刻んでありました。人相書きを一方の側に貼り付けて、連絡先を知らせ、情報を求める優れた制度です。

質問する方は「たずぬる方」へ、「志らせる方」は次号以降で答える、という形です。

「志らせる方」の監修役は、神戸湯尔橋亭丹波古文書塾々頭の木村大學頭修二様にお願いでできればと思います。例えば次のようなものです。

迷子しるべ石  
たずぬる方

私は丹波古文書倶楽部で高見對馬守由緒を学んでいます。が、登場人物の主従関係や家族関係が良く判りません。

赤井家や高見家の系図が判る資料をお持ちの方や両家の歴史に詳しい方がありましたら、教えて下さい。(甘木 某)

床屋談義

さらに、古文書以外の一般的な情報交換欄は『床屋談義』という欄にしたいと考えます。

江戸時代、庶民の情報交換の場は床屋さんで、政治から趣味や世間話など手軽な話題で盛り上がりました。会員の情報交換の場という意味で使います。

※ その他にも、古文書かわら版では色々な情報を取り上げて行きたいと思えます。事務局や会員に対する要望やこんな事をしてみたい、あんな事はできないの、と言った提案などがあつた時は、『目安箱』の欄で皆さんにお知らせする。更に、会員の研究成果を発表する場としてこの会報を活用したら、という思いもあります。が、紙面に限りのあることや研究成果なら、もっと学術的な別の体裁でしっかりした形で発

行するべきだという意見もあつて、今後の課題と考えています。

なお、かわら版の入力と印刷等編集は、新陽弟軒烏足齋こと、岸孝明が担当致します。

※お名前前に勝手な変更を加えていますが、「かわら版」の趣旨に免じて、お許し下さい。変更希望者は申し出て下さい。

相撲の番付表でも『蒙御免(ごめんこうむる)』と書いてあるではないですか？ 意味が違いますか？。まだ、古文書の勉強が足りません。

会員の皆様も、あだ名や雅号、筆名など、自由にお作り戴いて名乗りをしていただいたら楽しいかな、と思つています。ちなみに「源氏物語」は女性を父親の官職や女官としての役職などで表しています。それで、江戸時代に入り、この命名法は武家の奥女中に受け継がれ、芸者や遊女にも用いられる「源氏名」として使うようになった、という話です。夢千代ならぬ〇千代、〇奴とか、また、綾〇路〇磨などステキな挑戦をどうぞ。かわら版は、江戸時代に文字を読める庶民の楽しみの一つだったことでもあります。我々も当時の人に負けじと、

洒落・謎・遊び言葉・文字遊び等の言葉遊びに勤しみましよう。

(注) 孔子が言った。学問をして、その学んだところを、復習できる機会を逃さずに、何回も何回も、くり返して復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。このようにして、知識が豊かになれば、道を同じくする友達に、遠い所からまでもやってくる。学問について話しあうようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。しかし、いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人が世間にはいるもの。そうした人がいたとしても、怨まない。それでこそ、学徳ともにすぐれた君子ではないか。(出典)

http://www.kairin.co.jp/a-ki/rongo 2011.5.22 付論語

◎ 自己紹介欄への投稿要領

- 一、お名前(筆名付なども歓迎)
- 一、住所や連絡先などは不要(特に必要な場合は記入可)
- 一、どんな目的で古文書を学ぼうと思つたのか、とか、読めるようになったらどんなこ

とをしてみたいと思つているのか、とか、古文書倶楽部以外にこんなことに取り組んでいる、とか、お互いに親しくなるためのきっかけとなるような情報を入れていただくように

- 一、分量は四百字程度を目途
- 一、可能ならワープロ打ち原稿
- 一、ワープロ打ちはUSBで持

参 若しくは岸宛イーメールで t.kishit@cell.o.nn.ne.jp 一、会報の入力・編集協力者募集

金棒引き

江戸時代各町方の自身番では、夜回りが金棒を引いてガラガラと大音を立てて火事や泥棒に対する注意喚起をしました。また、祭礼では金棒引きが神輿や山車の先導をしました。大きな音を立てるところから物事を大げさに触れ回る人のことも指すようになりまし

た。 会員の皆様に至急伝えたい事や編集後記を兼ねてこの欄を作りたいたいと思つています。

★ 八月例会は八月六日(土)

午前十時から春日住民センター大会議室に変更実施です。  
★ 今年のフィールドワークは十二月例会の午後に行う形で計画中です。詳細は決定次第、  
川口丹波守利和公よりお知らせします。  
★ 五月二十日付で丹波市『活躍市民によるまちづくり事業応援事業補助金』の申請をしておりましたが、五月三十一日付で『生涯学習のつどい』を開催する費用補助の交付決定を受けました。計画の内容等は次号以下で掲載します。

(文責) 新陽弟軒烏足齋